



TITLE:

2個の口柄を有するハナガサクラゲ
(刺胞動物門, ヒドロ虫綱)のたいへ
ん稀な記録

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 2個の口柄を有するハナガサクラゲ(刺胞動物門, ヒドロ虫綱)
のたいへん稀な記録. 南紀生物 2011, 53(2): 180-180

ISSUE DATE:

2011-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188339>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

2 個の口柄を有するハナガサクラゲ (刺胞動物門, ヒドロ虫綱) のたいへん稀な記録

久保田 信*

Shin KUBOTA: Very rare record of *Olindias formosa* (Cnidaria, Hydrozoa) with two manubria from Japan

本州中部以南の沿岸に分布する大形のヒドロクラゲであるハナガサクラゲ *Olindias formosa* は、和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”では4 - 8月に漂着することがあるが(久保田, 2003, 2004), 和歌山県田辺湾でのプランクトンネット曳きでは、小形の未成熟クラゲでさえ1個体も採集されることがない(久保田, 2008; 河村ほか, 2009)。今回, 2011年6月15日に, “北浜”の満潮線付近に, 2口柄を有する大形個体が生きたまま打ち上がったので報告する。

この成体の傘径は7 cmほどの普通の大きさで, よく発達した生殖巣が1個ずつ4本の放射管の各々に形成されていた。この個体には, 普通サイズの口柄とその根元から分岐した少し小さく短い口柄があった(図1)。この個体は浜に漂着して間もない状態だったので, 水槽中に収容すると, 2週間ほどは餌を与えなくても元気に生存した(図1)。

このような2個の口柄を有する個体は, 世界のヒドロクラゲ類でもたいへん稀で, 日本からは田辺湾産の1個体のヤセオベリア *Obelia dichotoma* のみで知られており, 世界でも少数の種でしか報告例がない(河村ほか, 2003)。なぜ2口柄を持つようになったのかは, 不明な

ままである。

引用文献

- 河村真理子・GRAVILL, C.・久保田 信. 2003: 和歌山県田辺湾で採集された2個の口柄を有するヤセオベリア *Obelia dichotoma* (軟クラゲ目, ウミサカズキガヤ科) の成熟クラゲ. 南紀生物, 45(1), 71-72.
- ・上野 俊士郎・久保田 信. 2009: 2001年, 2002年および2004年に和歌山県田辺湾で採集された有クラゲ類および有櫛動物. 瀬戸臨海実験所年報, 22, 37-43.
- 久保田 信. 2003: 和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の季節変化. 漂着物学会誌, 1, 21-24.
- . 2004: 和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の異例な季節変化—前報との比較を含めた続報. 漂着物学会誌, 2, 25-28.
- . 2008: 和歌山県田辺湾で1997年の4月から9月までに採取された日本初記録種を含むヒドロクラゲ類(刺胞動物門, ヒドロ虫綱). 瀬戸臨海実験所年報, 21, 40-48.

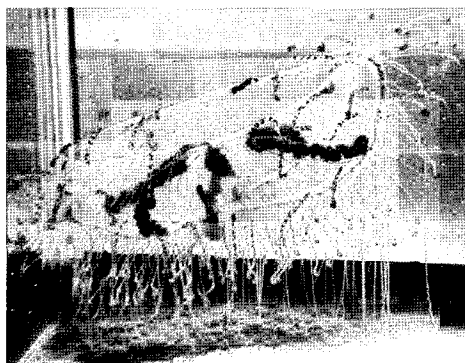


図1 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に2011年に漂着した2個の口柄を有するハナガサクラゲ

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
email: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp